

科目区分	専門分野	授業科目	看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 看護と看護の対象となる人間及び健康の概念を理解し、看護の果たすべき機能と役割を理解する。</p> <p>目標: 1 看護の本質及び看護の概念を理解できる。 2 看護の役割と機能、看護実践の方法を理解できる。 3 看護における倫理を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護の概念	9	1 看護とは何か 1) 看護の本質 2) 看護の主要概念－人間・環境・健康・看護－ 3) 看護の対象 4) 看護の定義 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 各理論家による看護とは(ナイチンゲール、ハンダーソン、オレム、トラベルビー、ウィーデンバック、ロイ) (3) ケアリングとしての看護 (4) 職能団体による定義 2 看護の歴史 1) 近代看護への道 2) 職業的看護の発展	
2 看護の対象	4	1 統合体としての人間 1) 関係的存在としての人間 2) 全体的存在としての人間 3) 人間の成長と発達原則 4) エリクソン、ハヴィガーストの理論 5) 基本的ニードと成長のニード 6) 人間と環境 (1) ホメオスタシス(身体的環境) (2) ストレス、コーピング(精神的環境) 2 人間の個別性 1) 生活とくらし 2) 多様性を持つ性 3) 役割 4) 国民の健康の状態	
3 健康の概念	4	1 健康とは 1) 健康の定義 2) 健康の概念の変遷 3) 看護における健康の概念 4) 国際生活機能分類(ICF) 5) ウェルネス	
4 看護の役割と機能	2	1 看護の役割と機能 2 看護が機能する場 3 保健・医療・福祉の連携 1) 継続看護 2) チーム医療 3) 地域包括ケアシステム	

5 看護実践の方法	2	1 看護技術 2 看護過程 3 臨床判断 4 看護師—患者間の援助関係
6 看護における倫理	6	1 看護と法 2 倫理とは何か 3 専門職としての倫理 1) 専門職の要件 2) 専門職としての役割と責任 4 臨床倫理 1) インフォームドコンセント 2) 医療倫理の4原則 5 看護とインフォームドコンセント
7 看護実践を支えるもの	2	1 看護制度と看護行政 2 看護師の労働環境と労働安全衛生 3 看護教育
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート課題 参加状況・態度等
テキスト		メヂカルフレンド社 基礎看護学① 看護学概論 現代社 看護覚え書 —看護であること 看護でないこと—第8版 メディックメディア 看護がみえるvol.5 対象の理解 I メディックメディア 公衆衛生がみえる 新日本法規 看護六法 令和6年版
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護における基本技術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 看護実践の基盤となる考え方を理解し、看護における共通基本技術を習得する。 目標: 1 看護実践における看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2 医療における安全に必要な知識を理解できる。 3 感染予防に必要な知識と技術を習得する。 4 ボディメカニクスの基本を理解できる。 5 看護に必要なコミュニケーションの基礎的知識と技術を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護技術の概念	2	1 看護技術とは 2 看護技術の特性 3 看護技術を実践するプロセス 1) フィジカルアセスメントの技術 2) 対人関係の技術 3) 日常生活援助の技術 4) 医療処置介助の技術 4 看護技術における安全性・安楽性 5 自立を支援する看護技術	
2 医療における安全	2	1 医療における安全 1) ヒューマンエラーの概念と人間の特性 2) 看護実践と医療事故 3) 業務上の責任と注意義務 4) 個人における実践対策	
3 感染予防の技術	16	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策(スタンダード・プリコーション)の考え方 3 標準予防策の実際 ※1 1) 手指衛生の種類 (1) 手洗い (2) 手指消毒 (3) 手術時手指消毒 2) 個人防護用具(PPE)の取り扱い 3) 環境対策 4) 感染経路別予防策 (1) 飛沫予防策 (2) 空気予防策 (3) 接触予防策 4 洗浄・消毒・滅菌 1) 医療器材の取り扱い 5 廃棄物の取り扱い ※1 6 無菌操作 ※1 1) 清潔・汚染とは 2) 滅菌物の取り扱いの基本 (1) 滅菌包装の開き方 (2) 鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し (3) 滅菌手袋の着用	

4 ボディメカニクスの基本	2	1 ボディメカニクスの基本 1)姿勢と動作 2)看護における力学の応用
5 看護におけるコミュニケーション	7	1 看護におけるコミュニケーションとは 1) 患者と看護師間のコミュニケーションの特徴、看護師の責任 2) コミュニケーション過程に必要な力 2 コミュニケーションのタイプ 1) 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 2) 明解性と継続性 3 看護における基本的なコミュニケーション技法 1) 正確な観察 2) 共感 3) SOLER 4) 開かれた質問・閉ざされた質問 4 コミュニケーション場面の再構成※2 1) 場面の再構成を行う意味 2) 実習でのコミュニケーション場面の再構成 3) コミュニケーション過程の考察
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート、参加状況・態度等
テキスト		メヂカルフレンド社 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考		※1、2は演習を行う。 単元2 感染予防技術の演習では、手洗い・手指消毒・個人防護用具の取り扱い・無菌操作(滅菌手袋の着用・鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し)を行う。 単元5 コミュニケーション場面の再構成では、基礎看護学実習Ⅱでのコミュニケーション過程を再構成し、考察する。

科目区分	専門基礎	授業科目	日常生活援助技術 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるための環境調整、活動と休息に関する看護技術を習得する。 目標: 1 環境調整の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 活動・休息の援助に必要な知識と技術を習得する。 3 体位保持に必要な知識と技術を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 環境調整技術	9	1 環境調整技術の基礎知識 1) 環境調整の目的 2) 療養生活の環境 3) 病室の環境のアセスメントと調整 2 環境調整技術の実際 ※1 1) ベッド周囲の環境整備 2) 病床を整える	
2 活動・休息援助技術	17	1 活動に関する基礎知識 1) 活動の意義 2) 体位 2 移動の援助 ※2 1) 体位変換 2) 移動 3) 移送 3 睡眠・休息の基礎知識 1) 睡眠・休息の意義 2) 睡眠の種類 3) 睡眠制御のメカニズム 4) 睡眠障害の種類と要因 4 睡眠・休息の援助 1) 環境調整 2) 睡眠習慣の調整 3) リラクゼーション	
3 安楽確保の技術	3	1 体位保持の実際 1) 体位保持の目的 2) 安楽に体位を保持する方法※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、技術試験※3、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版		
参考資料			

履修上の 留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。</p>
備考	<p>※1、2は演習を行う。 単元1 環境調整技術の演習では、環境整備・ベッドメイキング・リネン交換を実施する。 単元2 活動・休息援助技術の演習では、体位変換、移乗介助、歩行・移動介助、車いす・ストレッチャーでの移送を実施する。 単元3 安楽保持の技術では、安楽な体位の保持を学ぶ。</p> <p>※3技術試験は、車いすへの移乗介助を実施する。</p>

科目区分	専門分野 I	授業科目	日常生活援助技術 II
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な食事・排泄に関する看護技術を習得する。 目標: 1 食事の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 排泄の援助に必要な知識と技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 食事の援助技術	14	1 食事の基礎知識 1) 食事の意義 2) 食事の援助に必要なアセスメント (1) 栄養状態 (2) 摂食における姿勢・動作 (3) 咀嚼・嚥下機能 (4) 食欲 3) 食事の種類と形態 4) 食事の援助 (1) 食事援助の基礎知識 (2) 食事援助の実際 ※1 2 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 (1) 中心静脈カテーテルの管理	
2 排泄の援助技術	15	1 排泄援助の基礎知識 1) 排泄の生理的・心理的・社会的意義 2) 排泄機能とメカニズム 3) 排泄行動 4) 排泄に異常のある患者の初期把握 2 排泄援助の実際 尿器・便器の使用と導尿・浣腸※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習 単元1 食事の援助技術の演習では、食事介助・経鼻胃チューブの挿入・経管栄養法による流動食の注入を行う。 単元2 排泄の援助技術の演習では、尿器・便器の使用と導尿・浣腸を行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(45時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な衣生活・清潔に関する看護技術を習得する。 目標: 1 衣生活の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 清潔の援助に必要な知識と技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 衣生活の技術	6	1 衣生活の基礎知識 1) 衣服を用いることの生理的・心理的・社会的意義 2) 被服気候 3) 衣類の着脱 2 寝衣交換の実際 ※1	
2 清潔の援助技術	16	1 清潔援助の基礎知識 1) 清潔の生理的・心理的・社会的意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 清潔援助の効果 2 清潔援助の実際 ※2 1) 整容 2) 口腔ケア 3) 手浴 4) 足浴とフットケア 5) 洗髪	
	22	2 清潔援助の実際 ※2 1) 入浴・特殊浴槽・シャワー浴における介助 2) 全身清拭(陰部洗浄を除く) 3) 陰部洗浄とオムツ交換 4) 全身清拭	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、技術試験※3、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考	※1、2 は演習を行う。 清潔援助技術の演習では、全身清拭・洗髪・陰部洗浄とオムツ交換・足浴・口腔ケア、全身清拭・洗髪・陰部洗浄とオムツ交換を行う。 ※3技術試験は、清拭と寝衣交換を実施する。		

科目区分	専門分野	授業科目	看護を展開する技術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 科学的根拠に基づいた看護実践における基本技術を習得する。 目標: 1 看護過程の考え方と展開の方法を理解できる。 2 理論に基づく看護過程の展開を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護過程の考え方と展開方法	10	1 看護過程とは 1) 看護過程の5つの構成要素 2) 5つの構成要素の関係性 3) 看護過程を用いることの利点 2 看護過程の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション 3 看護過程の各段階 1) アセスメント(情報の収集と分析) 2) 看護上の問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実施 5) 評価 4看護記録 1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成	
2 看護過程の考え方と展開方法	20	1 ゴードンの機能的健康パターンとは 2 ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程 アセスメント 看護上の問題 計画立案 介入 評価	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I メディックメディア 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 メディックメディア 看護がみえるvol.5 対象の理解 I 学研 看護過程に沿った対症看護(病態生理と看護のポイント) 学研 疾患別看護過程の展開 照林社 基準看護計画 臨床で良く出合う看護診断と潜在的合併症		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程では、事例を用いて看護過程を展開する。		

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅠ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: ヘルスアセスメントにおける基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 ヘルスアセスメントの必要性とその方法が理解できる。 2 バイタルサイン測定の技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 ヘルスアセスメントの目的・方法	6	1 ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントの目的 2 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診 2) セルフケア能力のアセスメント 3 全身状態・全体印象の把握 ※1 1) 身体の計測(身長・体重・腹囲) 2) 全体の概観 4 心理・社会状態のアセスメント	
2 バイタルサイン測定の実際	23	1 バイタルサインの観察 ※1 1) バイタルサインとは 2) バイタルサインの観察の目的 3) 脈拍の観察の実際 (1) 脈拍のアセスメント (2) 脈拍の測定方法 4) 呼吸の観察の実際 (1) 呼吸のアセスメント (2) 呼吸の測定方法 5) 体温の観察の実際 (1) 体温のアセスメント (2) 体温の測定方法 6) 血圧の観察の実際 (1) 血圧のアセスメント (2) 血圧の測定方法 7) 意識の観察の実際 (1) GCSとJCS	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、技術試験※2、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習を行う。 演習では、身体計測・バイタルサインの測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)を行う。 ※2の技術試験では、バイタルサインの測定を実施する。		

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅡ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ケアにいかすフィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 器官・系統別のフィジカルアセスメントの方法が理解できる。 2 フィジカルアセスメントの進め方や適切なアセスメントにつながる考え方を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 フィジカルアセスメントの基本技術	20	1 呼吸器のフィジカルアセスメント ※1 1) 自覚症状、呼吸器疾患に関連した他覚症状・徴候の確認 2) 胸郭の視診・触診 3) 呼吸音の聴取(聴診) 4) 胸部の打診 5) 確認すべき検査所見 6) 事例における呼吸器系のフィジカルアセスメント 2 循環器系のフィジカルアセスメント ※1 1) 自覚症状の確認 2) 循環器系の視診・触診 3) 聴診 4) 事例における循環器系のフィジカルアセスメント 3 腹部のフィジカルアセスメント ※1 1) 自覚症状の確認 2) 腹部の視診・聴診・打診・触診 3) 事例における腹部のフィジカルアセスメント 4 筋・骨格系のフィジカルアセスメント ※1 1) 自覚症状の確認 2) 関節可動域の観察 3) 徒手筋力テスト 4) 関節可動域測定・徒手筋力テストから ADL をアセスメントする 5) 事例における筋・骨格系のフィジカルアセスメント 5 神経系のフィジカルアセスメント ※1 1) 自覚症状の確認 2) 運動機能の評価 3) 感覚機能の評価 4) 反射 5) 脳神経とその機能	
2 フィジカルレイグザミネーションの実際	9	1 フィジカルレイグザミネーションを用いた初期把握のための情報収集と解釈 ※1	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート、参加状況・態度等	

テキスト 参考資料	医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※1は演習を行う。 演習では、フィジカルイグザミネーションの基本的な手技を行う。またフィジカルイグザミネーションの実際には、事例をもとに、フィジカルイグザミネーションを用いて初期把握のために必要な情報収集と解釈を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う看護技術 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	2 年次
<p>目的: 検査の目的および検査に必要な援助技術と、呼吸循環を整える看護に必要な基本的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1 検査の目的および検査に必要な援助技術を習得できる。 2 呼吸・循環を整えるために必要な知識・技術を習得できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 検査における援助技術	6	1 検査・診察における看護 1) 検査・診察における援助の目的 2) 検査・診察における看護師の役割 2 検体検査における援助の実際 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 4) 血液検査 5) 穿刺 3 生体検査における援助の実際 1) 画像検査 2) 内視鏡検査 3) 心電図 ※1 4) 生体情報の持続的モニタリング	
2 呼吸・循環を整える技術	19	1 呼吸・循環を整える援助の実際 1) 呼吸を楽にする体位 2) 効率のよい呼吸法 3) 酸素吸入療法 ※1 4) 吸引 ※1 5) 排痰ケア ※1 6) 吸入 ※1 7) 霧法 8) 末梢循環促進ケア ※1 2 人工呼吸器を装着している人、気管切開をしている人の看護 1) 一般状態の観察 2) おこりやすい合併症	
3 創傷管理の技術	4	1 創傷処置の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治癒課程 2 創傷処置 1) 術後一次縫合創の処置とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) 包帯法 ※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート参加状況・態度等		

テキスト	医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 別巻 臨床検査 医学書院 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項	科学的根拠のもと安全安楽な看護技術が提供できるために、解剖生理学などの人体の構造・機能について、予習・復習し授業に臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。
備考	※1は演習を行う。 1 検査における援助技術、2 4)血液検査は、診療に伴う看護技術Ⅰで採血の演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	診療に伴う看護技術Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 安全に与薬をするための基礎的技術を習得できる。 目標: 1 与薬に必要な基礎的知識と与薬における看護の役割を理解できる。 2 安全な与薬の方法を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 与薬の技術	29	1 与薬の基礎知識 1) 薬剤使用の目的と主な方法・剤形 2) 薬物動態 3) 看護師の役割 (1) 薬物に関する法律と看護師の法的責任 (2) 安全な与薬の原則 (3) 薬の管理 2 与薬の援助 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内投与 7) 注射 (1) 皮内注射 (2) 皮下注射 ※1 (3) 筋肉内注射 ※1 (4) 静脈内注射 ※1 (5) 点滴静脈内注射 ※1 8) 採血 ※1 3 輸液・輸血管理 1) 輸液・輸血の種類と取り扱い方法 2) 輸液・輸血の管理方法 3) 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察 4) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い ※1	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	科学的根拠をもと安全安楽な看護技術を提供するために解剖生理学、薬理学の知識が必要になる。予習・復習して授業に臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。		
備考	※1は演習を行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	臨床推論 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(20時間)	開講年次	1年次
目的: 臨床的思考過程に基づいた看護実践の基礎的能力を習得する。 目標: 1 臨床推論のプロセスと気づくために必要な力を理解する。 2 臨床的思考過程の中の「気づき」を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1臨床的思考過程	4	1 臨床推論とは 1) 対象の背景・関係性 2) 気づき 3) 対象に起こっている状況の解釈 4) 実施・対象の反応と結果 5) 省察 2 気づくために必要な力	
2「気づく」に焦点を当てたシミュレーション	16	1 対象の状況に気づき、看護援助実践のための手がかりを得る。※1 1) コミュニケーションの場面 2) 環境整備の場面	
評価方法	レポート、シミュレーション、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開		
参考資料	医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版(参考)		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考	※1はシミュレーションを行う		

科目区分	専門分野	授業科目	臨床推論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(20時間)	開講年次	2年次
目的：臨床的思考過程に基づいた看護実践の基礎的能力を習得する。 目標：1 臨床的思考過程に基づいた看護実践が理解できる。 2 OSCE(客観的臨床試験)を通して、看護実践能力の到達度を評価する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 シミュレーション	10	1 対象の状態を観察し、看護援助を実践する。※1 1) 対象の初期把握—状況の解釈—実施・対象の反応と結果—省察 2) フィジカルアセスメントと環境整備 3) フィジカルアセスメントと清潔ケア 4) フィジカルアセスメントと移動の介助	
2 OSCE	10	1 OSCE(客観的臨床能力試験)※2 【キーワード】 寝衣交換 移乗動作 清潔の援助 輸液療法をしている患者の援助 膀胱留置カテーテルの管理 酸素療法の管理	
評価方法	OSCE(客観的臨床能力試験)、レポート課題、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ		
参考資料	メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 学研 看護過程に沿った対象看護(病態生理と看護のポイント) 第5版		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考	※1はシミュレーションを行う。 ※2はOSCE(客観的臨床試験)を行う。		

基礎看護学実習Ⅰ

〔2単位 60時間〕

目的

地域で生活する人々を支えるための看護活動の場と機能や役割を知る。また、療養環境の実際を知り、コミュニケーションを通して療養生活を送る人々の思いや考えに触れることができる。

目標

- 1 看護学生として基本となる姿勢や態度を身につける。
- 2 地域における施設の機能と役割を知る。
- 3 看護師の役割と活動について知る。
- 4 療養環境の実際を知る。
- 5 対象に関心を寄せ、自らコミュニケーションをとることができる。

実習時期及び実習時間

1年次 6月 8日間程度

基礎看護学実習Ⅱ

〔2単位 60時間〕

目的

療養生活を送る対象に関心を寄せ、理解し、その人に必要な看護援助を考える。

目標

- 1 対象に関心を寄せ、常に尊重した態度で接することができる。
- 2 対象を理解するために必要な情報を収集できる。
- 3 対象に必要な援助を考え、安全・安楽・プライバシーに配慮した計画が立案できる。
- 4 実施前・中・後の対象の反応を観察しながら看護援助が実施できる。
- 5 実施した援助が効果的であったか省察できる。
- 6 省察した結果を次の看護援助に活かすことができる。
- 7 チームの一員として責任ある行動をとり、積極的に学習を継続できる。

実習時期及び実習時間

1年次 11月 8日程度

基礎看護学実習Ⅲ

〔3単位 90時間〕

目的

対象の健康回復を支援するための看護を考え、実践するための基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の状態をアセスメントし、対象理解を深めることができる。
- 2 解釈・判断したことから看護上の問題を見出すことができる。
- 3 看護上の問題を解決するための看護計画が立案できる。
- 4 対象の状況に合わせた看護援助が実施できる。
- 5 実施した看護援助を評価し、計画を修正できる。
- 6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動ができる。
- 7 実習での経験を通し自己の看護観を深め、学びと課題を表現できる。

実習時期及び実習時間

2年次 13日間程度